

大山町議会議長 野口俊明様

大山町議会議員 吉原美智恵



平成25年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成25年8月1日(木)～2日(金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研 修 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1)みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう	滋賀県大津市
		(2)東日本大震災以降の経済とモノづくり	滋賀県大津市
		(3)「都市再生」と「コミュニティー創生」で進める持続可能な協同のまちづくり	滋賀県大津市
		(4)「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生	滋賀県大津市
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1)みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう 今、地域において、少子高齢化・人口減少・中山間地域の衰退等、課題は山積みである。そういう中で、それぞれの地域がバラバラに汗しても、まちは元気にならない。「部分個別最適」で終わらず、地域活性化の基準(ものさし)を探し出し、検証し、行動していくことで、「全体最適」に向けて進化して行くことが重要であるということを学んだ。</p> <p>(2)東日本大震災以降の経済とモノづくり 被災の状況は、場所によって大きく異なり、震災後1年半を過ぎたが、復興の度合いも大きな落差がある。 水産部門においては、事業の再開を機に、近代的な経営への転換を意識し、新商品の開発へと踏み込もうとしている。 素材をそのまま出さず、商品付加価値を高め、さらに雇用拡大へと繋げて行くという、6次産業化の推進を図っている。</p>	

<p>4</p> <p>研修結果 又は概要 (意見・感想)</p>	<p>(3)「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり</p> <p>住民の付託を受けた、市町村長と議会が、緊張関係と協調関係のバランスの中で、共に住民本位の自治体の在り方をいかに創造して行くかということを追求し、実行している三鷹市である。</p> <p>「コミュニティ創生」として、共助、地域の支え合い事業を確実に推進しており、又、市民との情報共有に取り組み、職員の人財育成にも市長自ら精力的に取り組んでいる。</p> <p>(4)「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生</p> <p>講師は、元市役所職員であり、退職後地域のプランナーとして活躍している。</p> <p>飯田方式とは、自ら課題を考え、地域を総合的かつ構造的に見て政策を行うことである。</p> <p>市民が資金を出し、「飯田まちづくりカンパニー」を創造している。</p> <p>単なるイベントでは、活気づけのみで、再生にはならないという言葉が印象的であった。</p> <p>(5)まとめ</p> <p>国内的に、有名・多彩な講師陣を迎え、充実した研修となった。</p> <p>特に、三鷹市長の清原慶子氏の講義は、今の大山町の多くの課題解決への道しるべとなるべき有意義な研修であった。</p> <p>「市民満足度・意向調査」の結果で、9割の市民が三鷹市を「信頼」しているとの回答を得たという結果は、自治体経営の本質を表している。</p> <p>市民と職員が気概を持って、一丸となって取り組む姿勢と施策の実行力に感銘を受けた。</p>
---	--